

名誉村民称号贈呈式に出席



27日、称号贈呈の辞を読み上げる山田村長と、授与された清野欣一さんの娘さん(於リコッティ)

清野先生の思い出

私には、清野先生に何度か診察していただいたなかで、いつまでも忘れられない2つの思い出があります。1つは、中学校時代部活の練習中に激しい腹痛に襲われ(私はそう感じた)、診療所に駆け込み、「盲腸ではないでしょうか」と、清野先生にみていただきました。先生は、丁寧に診察をしてくださってから、「大丈夫です、盲腸ではありません。もう少し腸内の動きが活発になるといいのですが」と。急に激しく走り出したことがよくなかったようです。

もう1つは、結婚してから同居していた義母が癌で亡くなったとき、告別式も終わった後、癌という病気の恐怖に取り付かれてしまったのか、「私のお腹に何かできている」と、思うようになり、清野医院を訪れ、義母の病死の話しもしながら、「何かしこりがあるような気がしてならないのですが」と清野先生に診ていただきました。先生は、打診ができる方でまた丁寧に診察をして下さいました。このときは「お腹に悪いものは何もありませんよ」と言われました。

7月27日、リコッティにおいて、東海村名誉村民称号贈呈式が行われました。

本村では、これまでに名誉村民称号を授与されているのは、1997年4月1日授与の故川崎義彦氏(東海村初代村長)、故根本時之介氏(東海村第2代村長)の2氏です。

今回称号を授与されたのは、須藤富雄氏(元東海村村長)、照沼信邦氏(元東海村教育委員長ほか歴任)、清野欣一氏(元東海村国保診療所所長、元清野医院院長)の3氏です。清野先生は、他界されていますので、称号は娘さんが授与されました。

式典では、東海村少年少女合唱団が、お祝いの合唱(めだかのがっこう他)を披露してくださいました。



東海村少年少女合唱団の演奏。団の創設、初代団長は、称号を授与された照沼信邦さんでした

今になっては、どうしても思い出せない、当時の私は、やせすぎだったようです。

清野先生は、患者の気持ちに寄り添って本当に丁寧に診察をされ、患者が納得できるお話をしてくださる医師でした。どれだけの村民がお世話になったか、感謝の気持ちでいっぱいです。

兵站がテロの格好の標的 参院戦争法案質疑
質疑を通じて、違憲性と危険性が明白。米軍文書で
「戦場での燃料・水の補給は命がけ」と。戦闘地域
で兵站を行う戦争法案の危険性が浮き彫りに!